



高崎山史上初、メスザルがトップの座につくのか？

2021年3月15日、事件は起きた！B群のメス頭として君臨していた「ビケイ」【今年21才(人間の年齢で60代)】がビケイの6番目の子供「ヤケイ」【今年9才(人間の年齢で30才くらい)】とサル寄せ場でもめていたのです。最初は親子喧嘩で、そこまでは大きくならないだろうと思っていましたが、取っ組み合いの喧嘩に発展していったのです。最後はヤケイがビケイの尻尾に咬みついて離さず、ビケイは大きな悲鳴をあげ、この喧嘩は、娘のヤケイに軍配があがりました。

この日を境にビケイはヤケイが近づくと逃げるようになり、オスの助けを求めるようになりました。助けを求められた第2位「マクレーン」も第4位「ハジメ」もメス同士の戦いの中には入ろうとせず、様子をうかがうだけでした。

その後も、ヤケイがビケイを攻撃する様子は度々目撃され、完全にメス頭の地位をヤケイに奪われた形になりました。

4月に入ってヤケイは歩く時に尻尾を立てて歩くようになったほか、(通常はオスザルが尻尾を上げ、自分の力を見せつけて歩く)木の上に登って木ゆすりをしたり、(通常はオスザルが木を揺らすことによって力を見せつけています)他の群れに対して先頭に立って攻撃をするなど、まるでオスザルを見ているかのようにふるまい始めました。

さらに、5月に入ってからオスザルたちにも影響を与えるようになり、3位「ゴエモン」に対して攻撃をし、ゴエモンが泣きっ面になって逃げていく様子も目撃しています。2位「マクレーン」、4位「ハジメ」、5位「ルフィ」にいたっても、ヤケイがやってくると逃げていくという状態になっていることから、現在1位の「ナンチュウ」に続いて2位の地位にあるといってもおかしくない状況です。

過去、オスをバックにつけ、地位をあげたメスザルはいましたが、後ろ盾がいなくても、これほどまで実力をつけたメスは高崎山史上初めてで、今後の動向に注目をしています。



← 勢いが止まらない「ヤケイ」



ご意見・ご要望をおまちしています。



国立公園
高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500

E-mail / info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

MT Takasakiyama C Member's Club

[高崎山メンバーズクラブ] 会報



国立公園

高崎山
自然動物園

2021.夏号

No.103



写真募集中!!

皆さんの撮影したステキなお写真で会報誌の表紙を飾ってみませんか。なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

悩める? マルオの二重生活

C群の第3位「マルオ」がC群とB群を行ったり来たりの生活を送っています。

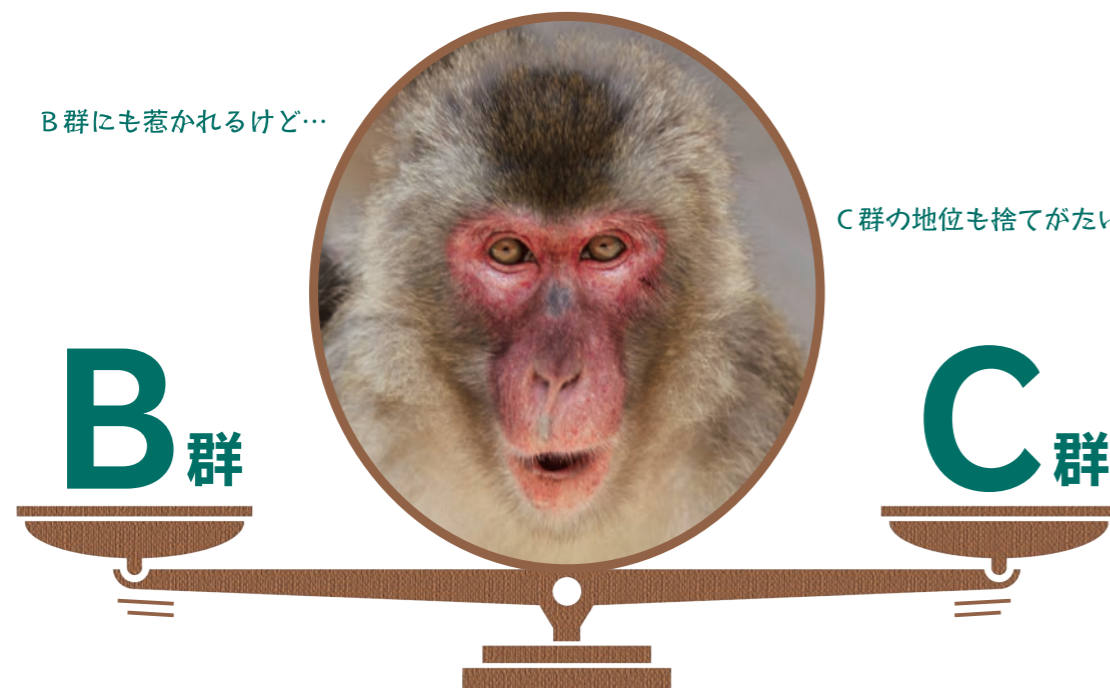
昨年(2020年)の12月にC群の第2位から第3位に転落した頃よりB群に興味を持ち始めました。最初の頃こそB群でメスサルと仲良くしていましたが、冬の発情の季節も終わりを告げ、夏を迎えようとしているのに、まだB群について行っています。

B群へのあこがれを抱いてついて行くのでしょうか。午前中はB群とともに高崎山の山中を駆け回り、午後、サル寄せ場にB群が出現する頃になると、マルオはひょっこりとサル寄せ場にいるC群の方へ顔を出し、C群の仲間とともに餌を食べます。あたかも朝から一緒にC群の仲間と過ごしていたかのように彼は違和感なくC群へと帰って行くのです。

しかし、C群がサル寄せ場から離れ、山へ引き上げて行くと、また彼はB群へついて行きます。B群における彼の立場はまだなく、仲間としても認められてはいないようですが、B群の隅っこで細々と生活しながら、B群がサル寄せ場にいる時間帯に、サル寄せ場でも見かける事があります。

B群にも惹かれるけど…

C群の地位も捨てがたい…



これまでも、このような二重生活を続けたオスサルたちを見てきましたが、長いサルでは数年間にわたりこの二重生活を続けていました。しかし、二重生活を始めたオスサル達のなかで「元の鞘に戻る」(マルオでいえばC群に戻って二重生活をやめる)サルはこれまでにありませんでした。マルオもいずれはB群に移ってしまうか、あるいはB群にも移らず、C群へも戻らずに一頭で生活するようになるのか、今後のマルオの動向が気になるところです。

あのしぐさ、このしぐさ、サルの癖

「無くて七癖」と言いますが、皆さんはどんな癖を持っていますか？

癖は自分では気づかない事が多く、そのほとんどが、人に言われて気づきます。人には言えない癖もありますが、私の癖のひとつは、サルに話しかける事です。

さて、サル達はどうでしょう？ 癖はあるのでしょうか？ 毎日サルを観察する中で、他のサルと違う事をしているサルを見かけることがあります。

C群3位の「マルオ」は座った状態で「手遊び」をしているところを頻繁に見かけます。両手の親指と人指し指と中指の指先を交互に触り感触を確かめているようです。また、砂を握り高い位置からサラサラと落とすこともあります。ただ、最近はB群と行動を共にしているせいか、この行動を目にする事が無くなりました。B群にいる時は身動きをほとんどせずジッと周囲の様子を伺っているようです。「マルオ」の場合は、リラックスしている時に行うようです。

B群の3位「ゴエモン」は、毛づくろいする時に頻繁に舌を出します。その様子はまるで蛇の様です。集中すると自然と舌が出てくるのかもしれませんが。またゴエモンはサル寄せ場で過ごす時間に仰向けになり両手で両足を持ち上げて横になっている光景を目にします。辛そうな体勢に見えますが、リラックスしている様子です。そんな時は大抵、口を大きく開けて寝ていることが多く、野生のサルなのに警戒心は何処に置いてきたのかと感じます。

その他にも、自分の毛を抜いたり、グラビアポーズのような体勢で横になったり、ずっと自分の指をしゃぶったり、子どもの耳や手をくわえたり、さらには、子どものホホ袋から餌

を奪うサルもいます。他にも様々な癖を持っているサルがいます。

是非、ご来園の際にはサルの癖を探してみてください。



リラックスする「ゴエモン」

